

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)。

前回からの主要変更点

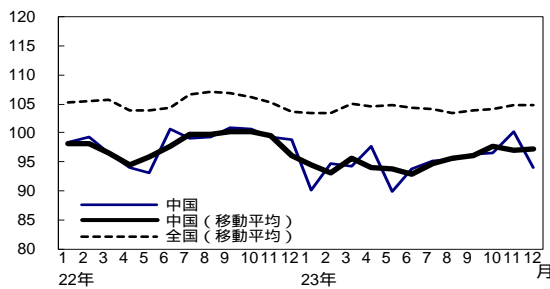
	前回 (令和5年11月)	今回 (令和6年2月)	
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 1.5% 増となった。月別にみると、10 月は化学が増加したこと等により前月比 0.1% 増、11 月は汎用・生産用・業務用機械が増加したこと等により同 3.9% 増、12 月は化学が減少したこと等により同 6.2% 減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.2	3.1	0.4	4.5	0.5	1.7
汎用・生産用・業務用機械	13.3	4.8	9.4	3.9	16.4	13.7
化学	12.2	0.6	7.5	13.6	12.7	25.4
電子部品・デバイス	8.8	8.6	3.9	7.5	1.3	5.2
食料品・たばこ	6.8	4.4	5.2	5.4	1.1	0.9
鉱工業	100.0	2.0	1.5	0.1	3.9	6.2

- (備考) 1. 2015年 = 100 (全国は2020年 = 100) 季節調整値。  
中国の最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12月期は前期比 1.0%減となった。月別にみると、10月は前月比 0.5%減、11月は同 0.1%減、12月は同 0.0%増となった。

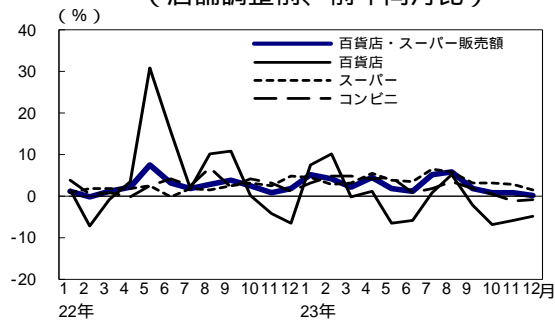
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比 0.6%増となった。月別にみると、10月は前年同月比 0.9%増、11月は同 0.8%増、12月は同 0.1%増となった。

百貨店は、10 - 12月期は前年同期比 5.7%減となった。

スーパーは、10 - 12月期は同 2.5%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



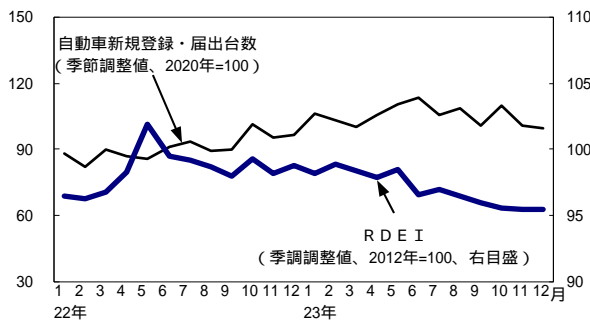
	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.0	0.5	0.1	0.0
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.9	0.8	0.1
百貨店(*2)	5.7	6.8	5.8	4.7
スーパー(*2)	2.5	3.1	2.9	1.6
コンビニ(*2)	0.4	0.6	1.1	0.8
乗用車(*3)	6.2	8.8	7.2	2.4
(季節調整値)(*3)	1.5	8.9	8.2	0.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

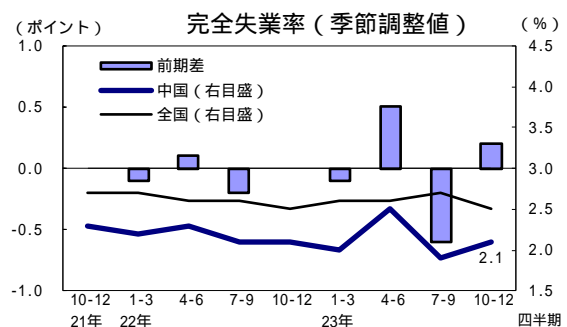
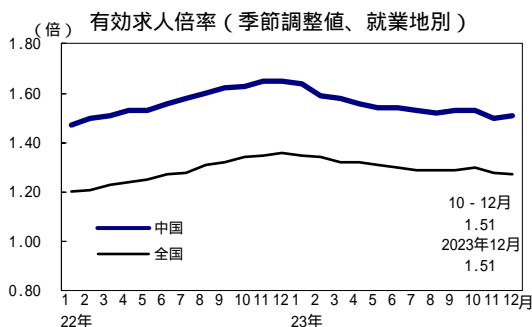
RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P9 参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和6年1月調査) 景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>□: 今月については、洋品雑貨や婦人服などの服飾雑貨が厳しい状況に変わりはないが、宝飾・美術品などの高額アイテムは好調に販売できており、明暗が分かれている (百貨店)。</li> <li>▲: 客が来店しても商品を見るだけで、購入せず、バーゲンセールまで待とうとするため、非常に厳しい状況が続いている (商店街)。</li> <li>○: 物価高騰により、販売価格も高騰しているにもかかわらず、分譲住宅購入者が増加傾向にある (住宅販売会社)。</li> </ul>
	企業動向関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>□: 市場価格や納期に対する理解が進み、価格転嫁が比較的可能な状況である (建設業)。</li> <li>○: 寒暖の差が大きく、季節商材の受注量が増加し、少し良い傾向になりつつある (食料品製造業)。</li> <li>▲: 3か月前は納期対応のため、時間外労働を行っていたが、現在は定時工数で対応できている (金属製品製造業)。</li> <li>◎: 大手自動車メーカーの不正問題があったものの、引き続き忙しい (輸送用機械器具製造業)。</li> <li>×: 引き続き、取引先の生産調整等により装置関連の受注量が減少していることに加え、年初に発生した能登半島地震の復旧に資材等が集められていることから、部材の受注停止や価格高騰が発生している (電気機械器具製造業)。</li> </ul>
	雇用関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>□: 物価上昇のスピードに派遣社員の時給上昇が追い付いていない。求人企業に対し料金交渉を行っているが、十分な理解が得られていない (人材派遣会社)。</li> <li>○: 人手不足が深刻な状況になっており、採用に金を掛ける企業が増加している。特にWeb広告やSNSなどが活用されている (求人情報誌制作会社)。</li> <li>▲: 求人数が前年同月を下回る状況が続いており、特に製造関係に弱さがみられる (職業安定所)。</li> </ul>
	その他の特徴コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>□: 県内の他の道の駅との会合があり近況を報告したが、どこも客が増えたという報告はなく、新型コロナウイルス感染症発生以前には戻り切れていないとのことだった (その他専門店 [土産物])。</li> <li>□: 元日の能登半島地震の影響もあるのか景気は良くないと思う。特に1~2月は飲食業界が落ち着く時期なので期待もできない (一般レストラン)。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計動向関連</li> <li>企業動向関連</li> <li>雇用関連</li> <li>その他の特徴コメント</li> </ul>

(D I) 現状・先行き判断D I (中国) の推移 (季節調整値)

